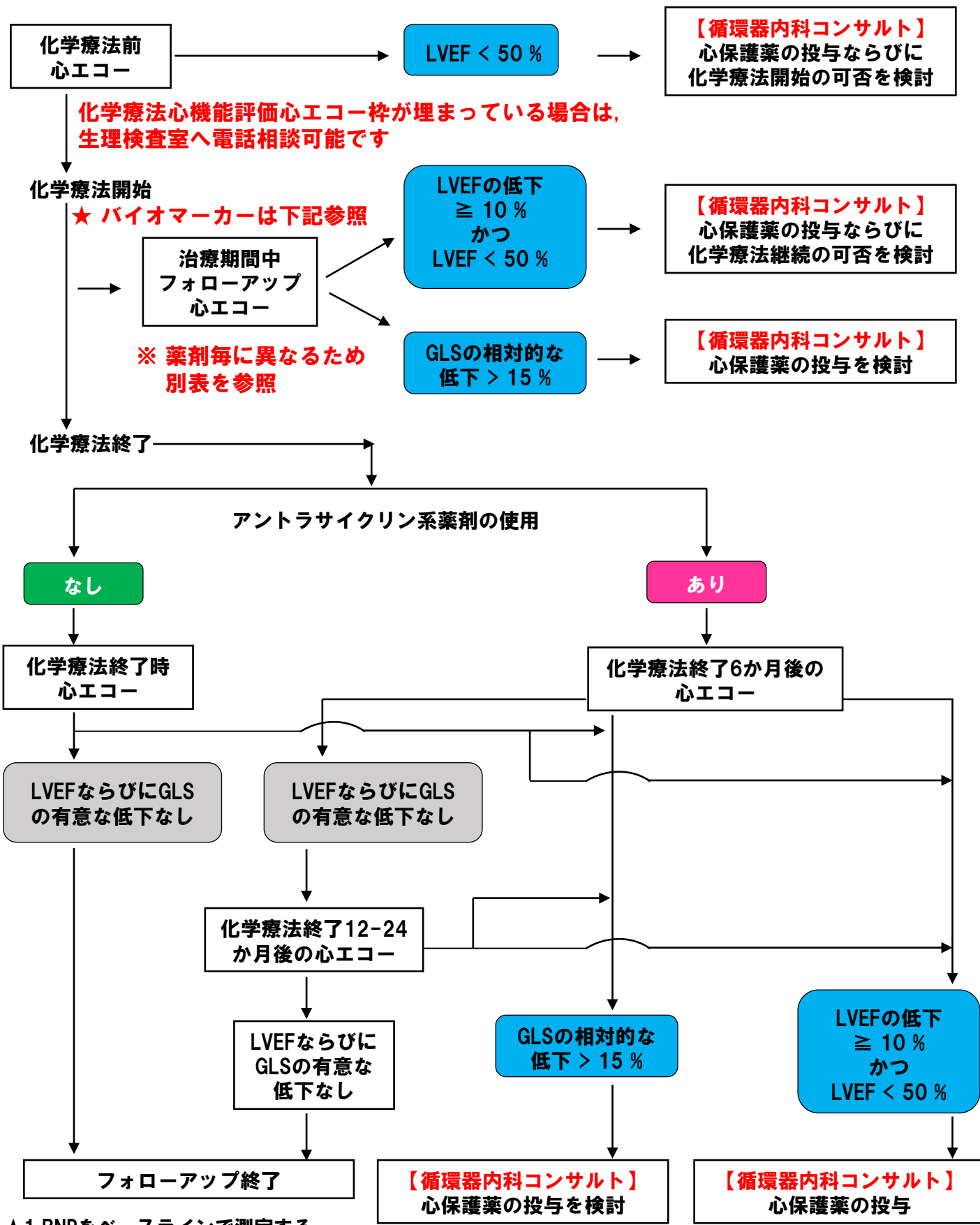


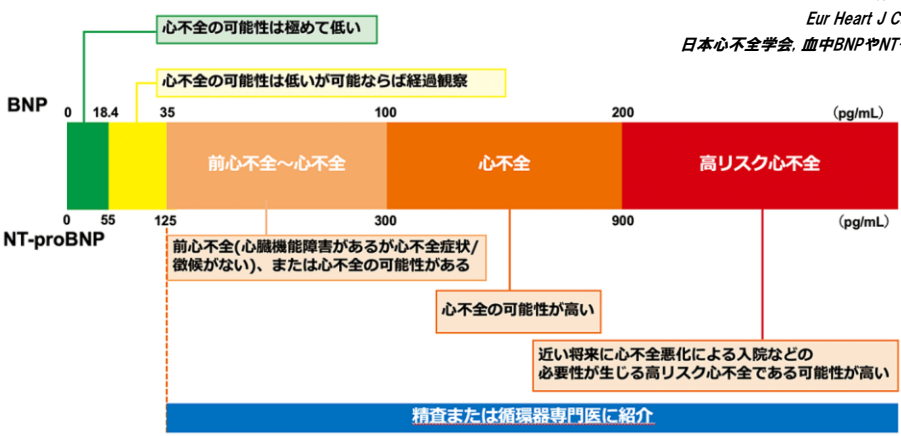
心毒性を有する抗がん薬使用時のフォローアップチャート

富山大学附属病院腫瘍循環器チーム



- ★1 BNPをベースラインで測定する。
- ★2 循環器内科コンサルトの際はBNPを再検し、胸痛等認められれば心電図とTroponin Iの測定が望ましい。
- ★3 フォローアップで心エコーをする時や、胸痛・呼吸苦など循環器疾患を疑う時はBNP or NT-proBNPを測定し、下記の表を参考に2内コンサルトしてください。

腫瘍循環器ハンドブック, 日本腫瘍循環器学会編集委員会, メジカルビュー社: 2020.
 Onco-cardiologyガイドライン, 日本臨床腫瘍学会/日本腫瘍循環器学会, 南江堂: 2023.
 Eur Heart J Cardiovasc Imaging, 24 (6): e98. doi: 10.1093/ehjci/jead080, 2023.
 日本心不全学会, 血中BNPやNT-proBNPを用いた心不全診療に関するステートメント2023年改訂版.



	治療前	治療中	治療後
アントラサイクリン系薬剤	必須	<ul style="list-style-type: none"> ・投与総量が(ドキソルビシン換算で) 240 mg/m²を超えた時点 500 mg/m²を超えた時点 ・治療終了時 	<ul style="list-style-type: none"> ・治療終了後6か月、12か月 ・その後必要に応じて
抗HER2阻害薬	必須	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月ごと ・治療終了時 	治療終了時にLVEF/GLSの低下がなければ、フォロー終了
免疫チェックポイント阻害薬	必須	治療終了時	治療終了時にLVEF/GLSの低下がなければ、フォロー終了
HER2以外の分子標的薬	必須	<ul style="list-style-type: none"> ・各薬剤の適正使用ガイドを参考に 臨床上推奨された場合 ・治療終了時 	治療終了時にLVEF/GLSの低下がなければ、フォロー終了

アントラサイクリン系抗がん薬換算表		
薬剤名	心血管毒性相対比	累積上限量
ドキソルビシン	1	500 mg/m ²
ドキソルビシンリポソーム製剤	1	500 mg/m ²
ダウノルビシン	0.6	25 mg/kg
エピルビシン	0.6	900 mg/m ²
ピラルビシン	0.62	950 mg/m ²
イダルビシン	4	120 mg/m ²
アクリラルビシン	0.27	600 mg
アムルビシン	記載なし	記載なし ^{*1}
ミトキサトロン	3	160 ^{*2} mg/m ²

*1 アムルビシンは、他のアントラサイクリン系抗がん薬が投与上限量の場合は禁忌

*2 アントラサイクリン系抗がん薬投与歴があるときは100 mg/m²